

1 市民、事業者、NPOと市の協働による計画推進

(1) 各部会の活動報告

社会環境部会活動報告 ～2年間の活動をふりかえって～ 部会長 野田直宏

部会での活動

「大気・ばいじん」が東海市最大の問題であるということで委員の認識は一致しましたが、市民・行政・事業者の協働で取り組むことが難しいため、「水質」を中心として活動することになりました。

ただし、「ばいじん」に対する事業者の取り組みを現地・現物で知るため、委員による臨海部工場視察を実施しました。

「水質」については、モデル地区を選定し、環境浄化微生物を住民に配布し日常生活で使用いただくことで河川等の水質浄化をめざします。また、効果を確認するため、市で定期的にモデル地区の対象となる河川等の水質調査と生物調査を実施していきます。

河川・ため池水質浄化プロジェクト

下水道工事が当面実施されない地区をモデル地区とし、上野新川及び新池を対象として、手代ヶ丘及び長生町内会の協力のもと、プロジェクトを開始しました。また、各町内会での活動の他に、以下の活動を実施しました。

- ① JC主催による環境浄化微生物開発者の曾我部先生の講演会
- ② 水質調査、水生生物調査（年4回）
- ③ エコスクール事業と協働による船島小学校ビオトープ観察会、上野新川の生き物観察会
- ④ 環境浄化微生物についてのアンケート
- ⑤ COP10シンポジウムでの活動報告



上記活動と並行して「上野新川ふるさとの水辺再生基本構想策定ワークショップ」も開始しました。



手代ヶ丘町内会での環境浄化微生物作成

上野新川ふるさとの水辺再生基本構想策定ワークショップ



上野新川中流部からの風景

たくさんの生き物と人が触れ合う豊かな上野新川を取り戻すことを目的として、活動を展開しました。

① 自然共生研究センターを視察し、河川の構造等が水生生物に与える影響などを学びました。

② コンサルタントを入れて、市の関連部署や団体、町内会、小学校などの代表者参加によるワークショップを3回実施しました。

③ ワークショップの中で、ふるさとの水辺の基本コンセプト（宣言文）、イメージ案作り、河川・水辺像の絞り込み、河川の構造案作り、全体構想案の作成を行いました。



ワークショップでの活動

協働について感じたこと・今後の課題

市民、団体、事業者、行政が一緒になって様々な分野について環境改善に取り組んでいくことは、とても良いことだと思います。こうした活動を通じて、これまでとは違った分野の方々とのネットワークが広がったことは、貴重な財産となりました。

参加者の皆さんから、色々な良い提案が出されても、最終的には予算の問題で見送られるものが多く、そういう意味では、正直言って無力感を感じ残念に思いました。上野新川ふるさとの水辺再生基本構想も、これから予算がついて実現めざして進んでいけるのかという不安が残ります。

知多メディアスに所属している私としては、地元的环境関連活動をテレビやFMラジオで積極的に取り上げていきたいと思っています。ただし、情報収集能力が不足しているので、関連イベントなどの情報をご提供いただくと非常にありがたく思います。